

社会で通用する力を身につける（坂本中のキャリア教育）

「社会で通用する力を身につける。」この言葉は、平成十年代頃から、坂本中学校の生徒に身に付けさせたい大切な能力の一つとして使われてきています。ちょうどその頃から「キャリア教育」という言葉が公的に登場し、その必要性が提唱されてきました。「キャリア」の意味するところは、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねを言います。

中学生年代は、将来の自分を意識し始め、社会に出ることや働くことを考え始める時期です。そのために、自分はどんな個性や特徴があり、どんな事に向いているのか、そして、今後何を学ぶべきかなど、様々なことを考えなくてはなりません。いきなりこんな難しいことを考えても結論は出ないので、時間をかけながら少しずつ仕事について学んだり、体験したりして勤労観や職業観を育てていくことが「キャリア教育」だと考えています。

コロナ禍を経て、昨年度の途中から今年度にかけて、キャリア教育として体験活動を実施できる機会が増えてきました。3年生は近隣の現役高校生に授業をしてもらって専門分野の学習体験を出前講座という形で実施し、2年生は職場体験学習を実施、外部講師を招いた職業講話も行いました。また、1年生は12月に「すご技中津川プロジェクト」により市内の工場見学に行く予定です。坂本中学校では、今後もこうした「キャリア」を積み重ねて、「社会に出て通用する坂中生」を育てていきます。

[職場体験事業所からの感想(一部)]

・積極的に保育士の仕事、体験に取り組むことができました。笑顔で子どもや職員に関わる姿、積極的に人と関わり仕事に取り組む姿が印象的でした。また、任せた仕事をしっかりとこなしてくれたので、大変助かりました。この経験を生かし、目標をもって、よりよい学生生活をし、今後の進路に生かしてってください。

